

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 7日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2012

課題番号：21520236

研究課題名（和文） 18世紀前半イギリスにおける音楽と演劇

研究課題名（英文） British Music and Drama in the First Half of the Eighteenth Century

研究代表者

高際 澄雄 (TAKAGIWA SUMIO)

宇都宮大学・国際学部・教授

研究者番号：50092705

研究成果の概要（和文）：18世紀前半イギリスの音楽と演劇の関係は、これまで詳しい研究がなされなかったが、17世紀末イギリスに歌劇が成立したのは、文学者と作曲家の緊密な協力の結果であり、その後も常に強い影響関係をもっていた。特にヘンデルのイタリア歌劇の作曲公演に当時の演劇が強い影響を与え、とりわけ1730年代にヘンデルの王立音楽アカデミーに対抗して貴族歌劇団が結成されたのも、演劇界の活性化が作用したことを、本研究は明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

Because the disciplines are different, the relationship of British music and drama in the first half of the eighteenth century has not been closely studied, while English opera was established through close cooperation of poets and musicians in the 1690's. Particularly Handel's composition and performance of operas and oratorios was strongly influenced by contemporary dramas, and the formation of the Opera of the Nobility, Handel's rival opera company was actually the result of activation of the drama in the early 1730's, which was made clear by the study.

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2009年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 2010年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 2011年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2012年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,100,000 | 930,000 | 4,030,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：18世紀英文学、17世紀後半イギリス音楽、17世紀後半イギリス演劇、18世紀前半イギリス音楽、18前半イギリス演劇、イギリス歌劇、イタリア歌劇

1. 研究開始当初の背景

(1) 1980年代以降、ヘンデルのイタリア歌劇の人気が高まり、イギリスのみならずヨーロッパ各国で上演されるようになったが、音楽界の変化と捉える傾向が高く、18世紀イギリス文学研究において、捉え直しをしようとする動きがあまり見られなかった。そこで特

に歌劇と台詞演劇との関係を通して、17世紀末から18世紀前半イギリスの音楽と文学の関係を捉える必要を感じるようになったのである。

(2) これまでの音楽と詩との関係の研究から、17世紀末に成立したイギリス歌劇は、詩

人と音楽家、とりわけジョン・ドライデンとヘンリー・パーセルとの緊密な協力の結果であったことが明らかになった。

(3) 1730 年代中盤の貴族歌劇団の設立は、ジョージ二世と皇太子の不仲が原因であったと説明されているが、ヘンデル派のライバル意識でのみ説明されており、競争関係が当たり前であった当時の文化状況を考えると一方的に過ぎて、十分な説明となっていない。もっと冷静な分析が必要である。

2. 研究の目的

(1) 17 世紀にイギリス歌劇が成立したのち、どのような経緯でイタリア歌劇が導入されるようになったのかを明らかにする。

(2) ヘンデルのイタリア歌劇公演はどのようにロンドンに定着していくのかを明らかにする。

(3) 現在では無謀と考えられている第 2 のイタリア歌劇団、貴族歌劇団がどのように設立されたのか、その原因を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 主として、文献を通じて研究を行うが、特に大英図書館所蔵の 17-18 世紀出版の歌劇や演劇の台本により、当時の文化状況を明らかにして、現代の解釈の歪みをできるだけ排除する。

(2) 現代では CD、DVD、それにインターネットを通じて、ヨーロッパの上演記録が使えるので、文献により歪みを取り除きながらも、こうした資料を積極的に利用する。

4. 研究成果

(1) ドライデンとパーセルにより、台詞劇と音楽劇の分離したイギリス歌劇が人気を集めたのち、イギリス上層階級はイタリア旅行により、レチタティーヴォとアリアをもつイタリア歌劇の卓越性に気づき、イギリスに移入しようと努力する。ヘイマーケットのクイーンズシアターの成立はこのような背景があったためである。

(2) 当初ロンドンで上演するイタリア様式の歌劇は、英語であるべきだと詩人たちは考えた。しかしアディソンの『ロザモンド』の不評、イタリア歌手の必要性からイタリア語によるイタリア歌劇が上演されるようになった。

(3) ヘンデルの 1711 年の『リナルド』公演の大成功はヘンデルにロンドンでの定住を決意させたが、安定したイタリア歌劇公演

を保証する劇団はまだ存在していなかった。王立音楽アカデミーの設立は、このような状況を踏まえたイギリス上流階層の人々の工夫の成果であった。

(4) 1720 年代に王立音楽アカデミーが安定してイタリア歌劇公演が可能となったのは、当時の演劇界の不振があった。ところが、1728 年のゲイの『乞食オペラ』をきっかけに演劇界が活発化し、それに刺激された人々はヘンデルだけのイタリア歌劇公演に飽き足らず、変化を求めて設立したのが、貴族歌劇団であった。ヘンデルはこれにより刺激を受け、第 2 の頂点を築き、『アルチーナ』などの傑作を作曲公演した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

①高際澄雄「ゲイ『乞食オペラ』の作品的特質」、『外国文学』、査読無、2011、23-38

②高際澄雄「エックレス『セメレー』の作品的特質」、『宇都宮大学国際学部研究報告』、査読有、第 33 号、2011、15-32

③高際澄雄「ボイス『聖セシリア祝日の第 2 オード』における詩と音楽」、『十八世紀イギリス文学研究』第 4 号、開拓社、2011、152-63

④高際澄雄「クイーンズシアターの設立とイタリア歌劇の興隆」『宇都宮大学国際学部研究報告』、査読有、第 29 号、2010、13-22

⑤高際澄雄「ヘンデル『セメレー』の上演形態に関する問題」、『外国文学』、査読無、2010、27-35

⑥高際澄雄「ヘンデルとスモレット——『アルセルト』をめぐる」、『宇都宮大学国際学部研究報告』、査読有、第 28 号、2009、43-53

[学会発表] (計 1 件)

①高際澄雄「アポロ協会とボイスのオード」、日本ヘンデル協会、2011 年

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高際 澄雄 (TAKAGIWA SUMIO)
宇都宮大学・国際学部・教授
研究者番号：50092705

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：